記者会見

日時　令和7年1月6日（月）
午後2時30分から
場所　市役所3階大会議室

1　新年の抱負について（資料 1）

昨年の振り返り

新幹線県内開業、紫式部、冠山峠道路開通と、この３つが重なった相乗効果が非常に大きかったと考えます。

大河ドラマ「光る君へ」では、越前編が6話にわたって放送され、特に越前和紙にスポットが当たりました。また、大河ドラマだけではなく、関連の番組も放送されました。大河ドラマ館の通算来場者数は、開館期間中の令和6年2月23日から12月30日までで16万1，614人と、十分な誘客効果がありました。NHK関連では、令和5年度の連続テレビ小説「ブギウギ」において、その前年にOSKたけふレビューで主演をされた翼和希氏が出演され、 オープニング映像は本市出身の映像ディレクター牧野惇氏が手掛けられました。また、今年の大河ドラマ「べらぼう」では本市出身の書家石川九楊氏が題字を書かれ、連続して追い風が吹いたと感じています。

石川九楊氏とは、本市は書道が盛んな「書のまち」であり、高名な書道家も多く輩出していることから、書をテーマに、恒常的にこの地に根付くような事業を一緒にできればと話しています。

新幹線については、ふるさとの日常の風景としてすっかり馴染み、市内と東京方面を新幹線で行き来できる環境が整ったことが、非常に重要だと思います。

ただ、越前たけふ駅東側駐車場の混雑については、頻繁にご指摘をいただきましたが、現在は満車となることはほぼなく、臨時駐車場も活用し対策をしています。昨年実施した実態調査の結果では、日帰りや1泊2日の利用が約80％で、概ねパークアンドライド駐車場としての機能を果たしていると考えています。

駐車場については、利用人数や利用目的、利用日数等の詳細調査を年度内に行う予定です。その結果を踏まえ、改善・改良を検討します。例えば有料化、車の出入りの制御、有料化した場合の新幹線利用者への割引制度といったことも考えられます。今後、ホテルや新しい交流拠点の整備を進める予定で、駐車場需要はさらに拡大する可能性があります。そこも踏まえた駐車場のあり方を、引き続き検討していきます。

子育てについては、にじいろこども園の開園、乳幼児教育・保育支援センターの設置、こども家庭センターの開設と、幅広く手厚いサポート体制が整い、医療費の無料化なども進めております。

有機農業については、県内でもトップランナーとして有機栽培面積が広がっており、市総合計画の目標もすでに達成しています。昨年はオーガニック都市宣言を行い、今後さらに有機農業に係る取組みを進めていきます。

自動運転事業については、県内初となる公道での自動運転バス（レベル2）による実証実験を行いました。1.2 ㎞のコースを500名弱の市民の皆さんに体験していただき、実用化に近い感覚を味わっていただけたと思います。これからの新たな交通のあり方を身近に感じる大きな機会となりました。課題も見えてきており、自動運転モビリティ自体の技術というよりも、社会システムの問題を対策すれば、いずれ自動運転レベル4や新幹線駅とハピライン駅とをつなぐ、あるいは、武生中央公園をつなぐ自動運転の実現など、次の段階につながっていくと思います。連携協定を結んだ永平寺町と一緒に、あらゆる可能性を探っていきたいと思います。

新年度について

「越前鳥の子紙」について、今年11～12月頃にユネスコの無形文化遺産に登録される見込みであり、登録されれば県内初の世界文化遺産となります。今、「鳥の子紙」の研修施設を整備中です。2月中には完成する予定で、竣工式を考えています。

並行して、昨年末に、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟申請を、国内委員会に提出しました。国内選考を通過すれば、次にユネスコ本部への申請を行い、夏頃までには加盟認定の結果公表がなされる予定です。こちらはクラフト＆フォークアートの分野で登録をしようとしており、これも県内では初めてのケースになります。 このことにより、世界の創造都市との交流が始まり、人の交流が生まれ、あるいは新しい付加価値が生まれます。

この2つのユネスコ登録によって、1500年の歴史を誇る越前市の伝統工芸を世界に打ち出す、名乗りを上げる、そういう契機にしたいと考えています。

公共交通については、坂口地区に続いて白山地区でも、自家用有償旅客運送事業を行います。これは、路線バスやコミュニティバスの維持が難しい中で、自分たちの力で自分たちが必要な交通需要をまかなう、という大きな意義があります。こうした自家用有償旅客運送のほか、デマンド交通、自動運転、ライドシェア等を組み合わせ、新しいタイプの交通システム、モビリティを作っていくことが、高齢化・人口減少で交通の需要が落ちる中では、非常に重要だと考えます。この白山地区では、特に高校生の通学にこれを提供しようという話があります。これは特徴的なことであり、こうした地域が支えるコミュニティというのも、人口が少ないエリアでは有効だと思います。

1月16日に開催予定の臨時議会については、重点支援地方交付金の追加交付による予算計上を予定しており、子育て、介護等の支援や事業者、農業者等への支援など、制度設計をしております。

脱炭素の取組みでは、4月1日の本稼働を目指し、現在アイシンスポーツアリーナとあいぱーく今立において、PPA 方式により自家消費型太陽光パネルの設置工事を進めています。使用する電力のCO_2 排出実質ゼロで運営するゼロカーボンアリーナにしたいと考えており、これは北陸初の取組みです。

今年は市制20周年にあたります。この節目に記念式典や記念事業を予定しております。様々な冠事業も展開したいと思っています。

本市出身のかこさとし氏については、7歳まで本市で過ごされ、生涯で600点を超える作品を世に送り出されました。また、かこさとしふるさと絵本館やてんぐちゃん広場、武生中央公園の再整備を監修していただきました。平成30年に92歳で亡くなられましたが、令和8年3月に生誕100年となることを記念して、来年度に関係企画展、イベントを開催したいと考えています。

学校のあり方については、学識経験者や学校関係者、保護者代表、地域自治関係者などに参画していただき、子どもの数が減少していくなかで、子どもたちが切磋琢磨できる最適な教育環境のあり方について研究する会を立ち上げたいと考えています。年度内に内部調査に着手し、新年度においては、それを外部化していくことも必要ではないかと考えております。

私が市政を担わせていただくことになってから丸3年が経ち、新幹線駅周辺での研究開発センターやホテルの整備、越前和紙の里やタケフナイフビレッジ、まちなかのにぎわい再生など、様々なプロジェクトが芽吹いたり、花を開いたり、ものによっては実を結んだものも出てきています。これを地域の元気と活力とし、最終的には、人生百年時代、子どもから高齢者の方まで幸せに暮らせる、安心して暮らせることに繋げていきたいと思っています。
また、子どもたちが学校へ行くのが楽しいと感じられる学校づくり、全世代がスポーツや運動ができる環境の整備、芸術文化活動の応援など、すべての市民が生涯学び続け、自分の可能性を広げることのできる越前市にしていきたいと考えています。 ウェルビーイング　幸せを実感できるふるさと、住み続けたい、帰ってきたい、あるいは行ってみたい、住んでみたい、そうなってもらえる越前市をつくっていきたいと思います。

<u>ほやほやシティトークについて</u>
フリーアナウンサーの山田恵梨子さんと一緒に、市政について噛み砕いてお話しする映像を作りました。第1弾は「越前市総合計画」についてです。これを市民の方に見ていただいて、市の現状と目指す姿を知っていただける企画にしており、市公式 YouTube チャンネルで公開しています。
こうした取組みも含めて、市民の皆様に市政をより知っていただきたいと考えています。

質疑
【質問】
　越前たけふ駅の駐車場については、有料化を本格的に検討していくのでしょうか。

【回答（市長）】
　有料化はあくまで手法の1つであり、前提としているわけではなく、年度内の調査結果や他の駅の事例を踏まえ、対応を検討していきます。
　調査の結果、駐車場の混雑が有料化によってコントロールできるものであれば、有料化も検討しますし、 駐車スペースの絶対量が足りないという話になると、新しい駐車場をどう整備するかという方向に切り替えないといけません。当面は、臨時駐車場を用意することでカバーできればと考えています。ホテルや交流拠点の整備が進んでくると、さらに駐車需要が増えることも考えられますので、駐車場のあり方についてはタイミングを見据えながら考えていきます。

【質問】
　越前たけふ駅周辺整備と併せて駐車場を拡張または増設していくことも、選択肢として持っているということでしょうか。

【回答（市長）】
　はい。ホテルや新しい交流施設の整備計画が具体化した時には、駐車場の拡張・増設について考えると同時に、無料・有料についても検討が必要です。それは整備の進捗に合わせて考えていきたいと思います。

【質問】
　駐車場利用の調査について、1月後半に再調査をされるということで、調査方法を詳しく教えてください。

【回答（地域交通課長）】
　アンケート調査については、1月中旬以降で約1週間から10日程度と考えており、カウンターで入場を調べたり、駐車している方に確認をさせていただきたいと思っています。
　内容としては、利用目的や利用日数、利用者の居住地、交通手段などを聞き取りしていく予定です。

【質問】
　学校のあり方の研究について、年内の内部調査というのは具体的に何をするのですか。

【回答（市長）】
　学校のあり方については、統廃合や小中の一体化など、全国的に様々な事例があります。そし

て、それぞれにメリット、デメリットがあり、それが本市に合うかどうかということを研究しなければなりません。まずは全国での事例とその効果、結果をリサーチするというのが、年度内に行う内部調査です。

【質問】
　越前市にはどういう方法が合うかという議論は、新年度に行われますか。

【回答】
　はい。そして議論の際には、有識者から幅広く意見をお聞きします。

【質問】
 現時点では、特定の地域や課題を想定したものではない、ということでしょうか。

【回答（市長）】
　原則的にはそうですが、 市内の学校を見渡すと、1学年の人数が1桁になっているケースや、今後0になるケースが見えています。そういったところをどうするかという議論にはなると思います。ただ、特定の案件を想定しているわけではありません。

【質問】
　昨年は大河ドラマや新幹線県内開業がありましたが、今年力を入れたいことは何でしょうか。

【回答（市長）】
　大河ドラマや新幹線等による効果は、ある程度落ちる想定をしないといけないと思います。
　ただ、本市が元々やろうとしていることは、越前和紙や越前打刃物などの伝統工芸、国府、町並みも含めて歴史、文化が今も息づいている産業やエリアに磨きをかけ、見てもらうことが目的です。昨年はインバウンド誘客で、海外富裕層向けの企画を作ってモニターツアーを実施し、その中では自動運転モビリティを使った夜の菊人形鑑賞も行いました。そのほかのインバウンド観光全体の取組みが成果を上げていますし、タケフナイフビレッジやまちなかでは、新しい宿泊施設の整備も進んでいます。
　今回、大河ドラマなどで越前市の認知度が上がったことを活用し、本来の宝を磨いて発信して見ていただく、ということをやっていけばよいと考えています。